

『正しく怖がる→怖がらないけど注意する…へ③』

様々な情報の中で、エビデンス(証明)が明らかで間違いない／間違いないであろうコロナ関連情報を幾つか確認しておきましょう。

- 国や地域、人種によって致死率が大きく異なる。
- 致死率の違いは、人種や生活習慣、基礎疾患の多寡、亜種ウイルスへの免疫獲得、医療インフラ…など様々な要因が複合的に影響しているようだ。
- 感染後、症状が出るまでの潜伏期間は1～17日とばらつきがある(平均5～6日)。
- 感染しても全く症状のない人が30～80%程度はいる
- 発症しても多くの場合は咳や発熱、味覚異常などの軽症。
- 子供も大人同様に感染する／感染させるが、重症化することはほとんどない。
- 高齢者や基礎疾患のある人は、肺炎などで重症化し易く致死率も高い。
- 臭覚異常や味覚異常があるときには、重症化し難い。
- PCR検査で陽性でも感染していなかったり、その逆が30～50%程度はいる。
- 症状が出る前でも他へ感染させることがある／無症状でも他に感染させることがある。
- (任意の保健所の聞き取り調査の限界による感染経路不明を除いた)狭義での「感染経路不明の市中感染」は、
ソーシャルディスタンス(3密回避)やマスク着用／手洗いなどを励行していればそうそうあることではない。
- マスク着用は、他へ感染させにくくする効果だけではなく、当初云われた以上に自身が感染し難くなる効果もある。
- 新型コロナウイルスは5 μm(マイクロメートル)以下の微小粒子として空気中などで比較的長時間生存する可能性が高い。

新型コロナウイルス感染症に限らず、生活するうえでのリスクをゼロにすることはできません。

「正しく怖がる」ことの大切さから一歩進み、「怖がる必要はないが注意する」必要を改めて再認識します。